

2026年度日系社会研修（多文化共生推進/日系協力型）日系サポーター コース概要

No	5
所管センター	東京
分野	教育
研修コース名	日本語初期指導
受入人数	1
受入時期	上半期
来日日	2026年7月15日（水）
帰国日	2026年10月14日（水）
提案団体	大泉町教育委員会
提案団体 ウェブサイトアドレス	https://www.town.oizumi.gunma.jp
研修員必要資格	小学校・中学校いずれかの教員免許を取得しているのが望ましい 日本語がある程度話せることは必須（指導者は日本人のため） 日本での生活・指導経験1年以上あると望ましい
研修員に必要な実務経験年数	その他（必要資格欄に記載）
研修使用言語	ポルトガル語 日本語
日本語能力 （JLPT目安）	N3
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語（母語）
研修目標	日本の教育システムや多文化共生の現状を理解し、日本語を全く話せない児童生徒への支援方法を習得する。
期待される成果 （習得する技術）	1 日本の教育システムについて理解する 2 日本の学校に入るまでに習得すべき表現やルールを理解する 3 保護者の不安に寄り添った対応や、学校へのスムーズな引き継ぎ方法を理解する
研修計画（内容）	講義：日本の教育システム、町内小中学校における外国籍児童の受入れ状況、外国籍児童の支援体制、保護者・学校関係者との連携、生活するのに必須の日本語表現や学校のルール、個別の指導計画、町内統一の漢字指導、町内小中学校における日本語指導事例 見学：町内小中学校の日本語学級・通常学級での外国籍児童生徒支援 実習：プレスクールにおける日本語初期指導 実施報告：日本と母国との比較について報告する。
研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等	近年、南米・アジアを中心に外国からの移住者が就労の関係で増加しており、それに伴い日本の学校に通わせたいという希望を持っている。しかし、日本での生活経験がなく、日本語を話せない状態で学校に入っても本人への負担が大きいと、教育委員会、プレスクールを新設し、学校に入る前の一定期間、そこで日本語と学校のルールについての基礎を学ぶことになっている。同時に児童生徒保護者の就学に関する相談を受け、学校に編入するまでに進めておくべきことなどを伝えている。学校に編入する際には個別の指導計画を作成し、各受入れ校にて特別の教育課程に沿って日本語指導を継続して受けられる環境の調整、事後サポートを行っている。
本研修実施の意義 応募者への裨益効果	本研修では、日本語を習得していない児童生徒が、どのような手順・方法で日本語習得に至るのか。また、学習に必要な言語の概念についてどのように指導するのかを学ぶことができる。基本的には各校に配属されている日本語指導助手が指導の中心に当たるが、全体指導や研修計画、教材準備などは教育委員会の外国人子女教育コーディネーターが担当している。
期待される国内の中南米出身者のコミュニティへの貢献（活動）	・外国籍児童生徒に対する母語でのコミュニケーション支援 ・外国籍児童生徒に対する学習支援・生活支援
応募希望者への特記事項	海外から日本の小中学校へ編入する児童生徒がスムーズに学校で生活するためにどんなことが必要か、何をどれくらいできれば良いか身につけさせるノウハウや、学校や家庭との連携について応募者の意見や見解を踏まえながらともに進めていければと考えています。